



## 洪水による被害を防ぐためにどのようなことを行っているのですか？

洪水は自然的現象であることから、これを完全に防ぐことはできません。しかし人間は、洪水による被害を防止・軽減させるために、これまでさまざまな工夫をしてきました。これを「治水」または「洪水防御」といいます。

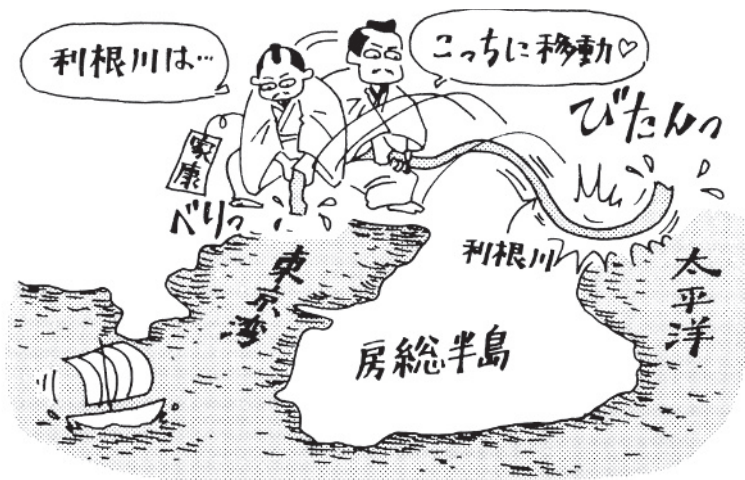
古くは、江戸の洪水被害を小さくするために利根川の流れを東京湾から銚子の太平洋沖につけ替えた、徳川家康による利根川東遷事業も、こうした洪水防御対策のひとつです。

現在における洪水防御対策は、ダムや堤防などの大規模な構造物などの建設を伴う「ハード対策」と、洪水予測やハザードマップなどの「ソフト対策」に分類されます。

ところで、このような洪水防御対策はどのように計画されるのでしょうか。一般には、川の重要度や過去の洪水被害の実態などをもとに目標とする安全度（計画規模）をまず決め、その安全度をもった基本となる洪水を設定します。次に、この基本となる洪水に対して防御が図れるよう、河道やダムなど施設の規模の検討が行われます。

これらの施設は、流域の上流から下流まで「水系一貫」の考えをもとに、それぞれの対策が技術的、経済的に相互に調和がとれ、十分に機能を果たすように計画されています。また、計画規模を超える洪水に対しても、できるかぎり洪水被害の軽減が図れるように配慮されています。さらには、川のもつ治水、利水、環境などのすべての機能を総合的に調整、検討されたうえで「洪水防御計画」が決定されます。

「河川法」では、将来目指すべき川の姿を定める「河川整備基本方針」と、



#### ハード対策

内容	対策例
①川の上流部に設置され洪水による土砂災害を防ぐ	砂防ダム、山腹工、流路工
②洪水を一時的に貯留して下流の流量を小さくして、被害を防ぐ	ダム、遊水地、調節池
③洪水を流下させ、川からの氾濫を防ぐ	堤防、護岸、放水路、分水路
④堤防の居住側の水や氾濫した水を河川へ排水する	ポンプ施設（排水機場）、樋門
⑤居住地での氾濫水を制御し、氾濫被害の拡大を防ぐ	二線堤、輪中堤
⑥建物や施設の一時的な湛水に対して直接的な被害が生じないようにする	宅地のかさ上げ、建物・施設の耐水化
⑦降雨による川への流出量を減少させて、洪水を防ぐ	雨水貯留施設、雨水浸透施設

#### ソフト対策

内容	対策例
①洪水氾濫などにより被害の発生するおそれのある土地の開発を抑えて適切な土地利用へと誘導する	土地利用規制、街の移転
②洪水の発生を事前に予測し警報を発することにより洪水被害をできるだけ小さくする	洪水予測、ハザードマップ
③洪水が発生した場合に、被害を小さくするように活動する	水防活動、避難活動、災害復旧
④洪水被害を救済する	水害保険

今後 20～30 年間の具体的な洪水防御施設などの整備を定める「河川整備計画」を策定することとしています。